

サンフランシスコ発 世界190 か所以上で開催。
大人から子どもまで楽しめる世界最大のDIY イベント

Maker Faire Tokyo 2017

出展者・協賛企業募集開始！

2017年8月5日(土)、6日(日) お台場・東京ビッグサイト

株式会社オライリー・ジャパン(本社:東京都新宿区)は、「Maker Faire Tokyo 2017」を2017年8月5日(土)、6日(日)の2日間、東京・お台場の東京ビッグサイトにて開催することを発表し、出展者、協賛企業の募集を4月4日(火)から開始いたしました。

オライリー・ジャパンは、2006年より雑誌「Make」日本語版を発行し、2008年からエレクトロニクス(電子工作)、DIY、サイエンス、ロボット、アートなど異なるジャンルの「Maker」(作り手)たちの発表の場、交流の場である「Maker Faire Tokyo」(前身「Make: Tokyo Meeting」)をつくってまいりました。年々規模が大きくなり2016年8月に行われた「Maker Faire Tokyo 2016」は、400組の出展者、18,000名の来場者を迎え、盛況のうちに終了いたしました。本イベントには、最新テクノロジーを自由な発想で使いこなす「Maker」とその作品が多数集合。国内外の最新技術に触れられる貴重な機会を提供するとともに、モノを作ることの未来を提示します。

□ 出展の申し込みについて

約550組の出展を予定しており、ウェブサイトの応募フォームより申し込みが可能です。申し込み締切は、5月2日(火)13時。

ウェブサイト: <http://makezine.jp/event/mft2017>

エレクトロニクス、ロボット、デジタルファブリケーション(3Dプリンター、レーザーカッターなど)、教育/キッズ、クラフト、アート/デザイン、VR、宇宙/航空/ドローン、バイオ/農業、Young Makers(学生出展)など

自分の手でモノを作り、その成果を多くの人と共有しようというMakerムーブメントのひろがりには、教育の現場からの注目、企業内部活という活動、地方に広がるファブラボの輪などいろんな場所で影響力をもち始めています。当日は出展者による展示や販売のほか、「Nerby Darby」「ドローンレース」「ヘボコン」などのレースやレクチャーやワークショップなど参加型コンテンツも予定しております。夏休みの2日間、多くの方に足を運んでいただきたく、ぜひ貴媒体にて、ご紹介いただけますようお願い致します。

□ 実施概要

名称: Maker Faire Tokyo 2017 (略称: MFT2017)

会期: 2017年8月5日(土)12:00~19:00、8月6日(日)10:00~18:00(予定)

会場: お台場・東京ビッグサイト(東京国際展示場)東7・8ホール

主催: 株式会社オライリー・ジャパン

入場料: <前売> 大人1,000円、18歳以下500円(税込) <当日> 大人1,500円、18歳以下700円(税込)

*小学校未就学者、障がい者手帳所持者は本人及び付き添いの方お一人まで無料

ウェブサイト: <http://makezine.jp/event/mft2017>

■ 記事掲載に関するお問い合わせ

株式会社オライリー・ジャパン 広報担当: 大西 (pr@makejapan.org)

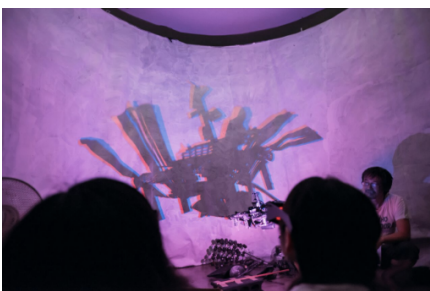
〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町12-22 VORT四谷坂町ビル1F

TEL: 03-3356-5227 FAX: 03-3356-5261

Maker Faire Tokyo

Maker Faire 2016の様子

Maker Faireでしか見れないユニークなロボットや新しい技術をつかった発明品、大迫力のドローンレース、先鋭の研究者による講演、子どもも楽しめる体験型の装置など「つくる」の最先端が大集合！





発明と創造のお祭り、Maker Faire

Maker Faireは、地上最大の(DIYの)展示発表会です。家族で楽しめる、発明と創造と役に立つ情報がいっぱいの展示会であり、Makerムーブメントのお祭りです。そこは人々が自分で作った物を見せ合う場所であり、自分が学んだことをシェアする場所でもあります。出展するMakerは、技術愛好家、クラフト作家、農家、科学者、ガレージの機械いじり愛好家など多岐にわたり、年齢も経歴もまちまちです。Maker Faireの使命は、このコミュニティを、楽しませ、情報を提供し、結びつけ、より大きくすることにあります。

日本でもひろがり増殖するMakerたち



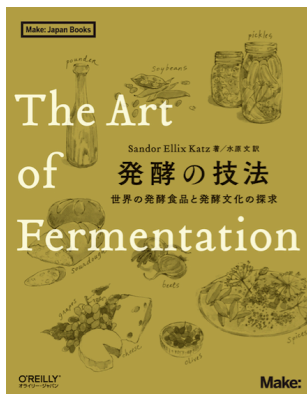
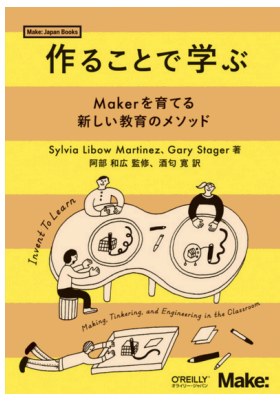
日本でも2008年からはじまった前身Make Tokyo Meeting (MTM) から数えると13回目、2016年8月に行われた「Maker Faire Tokyo 2016」は、400組の出展者、18,000名の来場者を迎え、3Dプリンター、ドローン、DIY農業、AI(人工知能)などMakerワードの社会的な浸透とともに規模も拡大しています。「Maker Faire Tokyo 2016」では、夏休み期間でもあるためご家族でのご来場も多く工作やハンダ付け体験のワークショップなど未来のMakerを育てるためのMAKERSPACEが大好評。また、Maker Faireやハッカソンで出会った人同士のチームや企業内外の有志グループなどの出展が増え、日本の中でもMakerの有機的なつながりも増殖しています。



自由な発想でテクノロジーを使いこなすMakerのための「Make」

「Make」は、アメリカ発のテクノロジー系DIY工作専門雑誌として2005年に誕生しました。自宅の庭や地下室やガレージで、びっくりするようなものを作っている才能あふれる人たちのコミュニティが、どんどん大きくなっています。「Make」は、そうしたコミュニティ同士を結びつけ、刺激と情報と娯楽を与えることを目的としています。「Make」は、すべての人が思いのままに、あらゆるテクノロジーを遊び、いじくり、改造する権利を称賛します。「Make」の読者は、自分自身、環境、教育——私たちの世界全体をよりよいものにするための文化、コミュニティとして成長を続けています。それは、雑誌の読者という枠を超え、全世界的なムーブメントになりました。私たちはそれを「Makerムーブメント」と呼んでいます。Makerムーブメントの全世界的な勢いは高まりつつあり、2016年にはMaker FaireとMini Maker Faireの開催地が全世界190か所を越え、合計約140万人以上の方が参加しています。

←Make: Technology on Your Time Volume 12 オライリー・ジャパン編 定価1,620円



作ることを楽しみ学ぶ、イノベーションのための文化を育てる

Makerムーブメントを可能にした背景としてよく挙げられるのは、Arduinoや3Dプリンターなどの新しいツールの登場と、ウェブを通じたユーザー同士の情報共有ですが、それ以外に文化的な背景も存在するようです。失敗を否定しないことや、完成度や正しいやり方(=他人の目)を気にせず、自分の作りたいモノをとにかく形にしてみるという米国のDIY文化が持っている優れた伝統も合わせて紹介することで、Makerムーブメントを単なるブームではなく、関わる方々の深いところに影響を及ぼすようなムーブメントにするお手伝いができればと考えています。